NPO法人苫東環境コモンズ選択肢いろいろ 苫東フットパス

牧場や山林などの田園風景を楽しみながら歩く小道（フットパス）。英国が発祥の地とされ、道内でも人気が高まっているが、苫小牧でも整備されていることを知り訪ねてみた。意外にもその場所は苫小牧東部地域（苫東）内にあった。

最も欧風に近いという柏原フットパス

自然が優しく包む ささみちフットパス

市街地から日高自動車道（高規格道路）と並行する国道235号を、車で東へと走らせ、つた森山林を過ぎた信号機のある交差点を左折すると、ささみちフットパスのエリアに入る。案内してくれたのは、苫東内で里山づくりなどに取り組むNPO法人苫東環境コモンズ事務局長の草苅健さん（62歳）緑地保全・整備などに長年携わり、現在は仕事の傍ら、週末のほとんどを苫東内で過ごす。

待ち合わせ場所は、環境コモンズの拠点として使うログハウス。脇道の林道を入ると後は道なり。近づくにつれ雑木林の光景ががらりと変わった。邪魔する木が少なく、見通しがいい。映画や写真に出てくる欧風の里山のような感じだ。ログハウスもすぐに見つかった。

最初に案内してくれたのがこのログハウスを拠点に広がるささみちフットパス。元々は樹木がひしめき合い、昼間でも薄暗い場所だったが、間伐などで整備した結果、里山のように変身したという。

実際に歩いてみると直射日光は木々の梢で和らぎ、程よい明るさ。里山のような穏やかな光景に癒される。大木もフットパスの道中にあえて残してある。「実際に木肌に触ったり、抱きしめられるようにしていま す」。癒しの効果があるという。「この場所は、自然に抱かれているような感覚になり、落ち込んでいる気分がリフレッシュされる効果があるようです」。2008年から開催している「こころの森フォーラム」のアンケートでこのような感想が寄せられたという。

大地の息吹感じる 柏原フットパス

苫東内には現在4カ所のフットパスがある。このうち3カ所を土地所有者の㈱苫東の了解を得て、苫東環境コモンズが中心になって整備してきた。もう1ケ所はつた森山林内にある。「元々は里山づくり。その過程の中で、道が必要になり、それならばフットパスにしようと」。その中でも、草苅さんが道内でも屈指のフットパスと誇るのが、続いて案内してくれた柏原フットパスだ。ささみちフットパスからは直線距離でおよそ4キロ西側に離れる。名称の通り柏原地区内にある。臨空柏原地区の東端に位置し、柏原展望台を通り過ぎ、その突き当りがスタート地点となる。

柏原フットパスは、防風林に囲まれた広い牧草地を次々と渡り歩く感じだ。小道は牧草地と防風林の継ぎ目を縫うように続く。「元々柏原地区の開拓農家が畑などにしていた場所。防風林はそのまま残し、当時使われていた農道を中心にコースにしていま

苫東一の大木も大島山林にある

航空写真マップ：NPO法人苫東環境コモンズ

"癒し効果で気分すっきり"と人気のささみちフットパス

案内してくれた草苅健さん

NPO法人苫東環境コモンズの拠点でもあるログハウス

フットパスを体験する団体の来訪者

大島山林が気に入って遠浅地区に移住した野村さん

お問い合わせ

苫東フットパス 苫東フットパスの各マップは下記ホームページに掲載されています。
http://homepage3.nifty.com/hayashi-kokoro/commons00.html
◆お問い合わせ「NPO法人苫東環境コモンズ」
事務局 草苅健さん e-mail：kt-884-556@nifty.com

里山気分を味わう 大島山林フットパス

安平町の遠浅地区住民といっしょに整備したのが大島山林フットパス。この地に開拓に入った住民の名前が冠されている。この場所も草苅さんたちのメンバーが密生していた木々の間伐を行い、本格的なフットパスに育てた。間伐材はマキとして活用し、小道は元々あった公園にもつなげている。苫東内で最も太い木となった樹齢およそ100年のドロノキもある。

大島山林は苫東と遠浅地区の新興団地との境界地区にある。この場所にほれ込んで移り住んだ住民は多い。野村治男さん（62歳）もその一人。「隣がフットパスのある里山。こんな素晴らしい場所があったのかと思って5年前に移ってきました」。四季の移ろいを肌で感じながら、森に入ると気持ちがリフレッシュされるという。特に冬の光景がお気に入りで、新雪のフットパスを回るのは気分最高と話す。

これらのフットパスは「一般にもオープンにしているが「あくまでも自己責任で」と草苅さんのアドバイス。「その日の気分で、いろいろな身近な自然の選択肢の中に苫東のフットパスを入れてもらえれば」。今回は里山のパワーに触れた探訪となった。